防災・安全ニュース

VOL. 43

危機管理課
２０２６年１１月号
電話：６５－１２８２

１１月は霜月です。霜は、農作物に被害をもたらしますが、霜注意報は、農作物への影響のない時期や、霜が降りることが当たり前となる真冬には発表されません。このため、松山地方気象台が発表する霜注意報は、主に晩霜を対象としていますので注意が必要です。

では、今月号もよろしくお願いいたします。今月号のトピックスは次のとおりです。

・津波防災の日
・自転車の灯火点灯義務
・うるう秒挿入・削除の停止

津波防災の日

今月５日は、法律で定められた**「津波防災の日」**です。

今年２月に公表されました愛媛県地震被害想定調査（最終報告）では、**南海トラフ地震で発生する津波での新居浜市の想定死者数が1,211人**となっています。この想定は、地震の直後避難率を45.6%（令和７年愛媛県内アンケート）とした場合の人数ですが、同想定調査において**直後避難率を100%にした場合は約４分の１まで死者数を減らせる**としています。

津波に関する警報及び注意報は、大きな地震が発生すると緊急地震速報に続き、地震発生から約３分以内に発表されます。**特に、大津波警報及び津波警報を聞いたならば、**沿岸部や川沿いにいる人は**直ちに高台や高い建物に避難**してください。また、**津波は繰り返し襲ってきますので、警報が解除されるまでは高い場所を離れない**ようにしましょう。

津波警報・注意報の種類及び取るべき措置（気象庁HP）

→ https://www.data.jma.go.jp/multi/tsunami/tsunami_advisory.html?lang=jp

自転車の灯火点灯義務

先月は交通ヒヤリハットを取り上げましたが、先日の夜間、私が車を運転中、無灯火の自転車が店舗の駐車場から飛び出してきて急ハンドルで衝突を回避するという、まさにヒヤリハットを経験しました。この事例は、無灯火でなければ早めに発見できた可能性があったと思います。

自転車の灯火は、道路交通法において夜間（日没から日の出まで）点灯の義務があり、無灯火だと今年から自転車の交通違反に導入された青切符（交通反則通告制度）での**反則金は 5,000 円**です。



ここでいう自転車の灯火とは、前照灯と尾灯（反射器、反射材でも可）を指し、詳細は愛媛県道路交通規則第９条に定められています。夜間における灯火の点灯はもちろん、**反射材を身に着けることも交通事故防止と自らの命を守ることにつながります。夜間に自転車を利用する際には、着用をお勧めします。**

夜間はライトを点灯（内閣府 HP）

→ https://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/r05kou_haku/zenbun/genkyo/feature/feature_2_3.html

うるう秒挿入・削除の停止

うるう秒というのは、**地球の自転に基づく時刻（世界標準時）と高精度な原子時計に基づく時刻（国際原子時）のズレ（地球の自転速度の変化による。）を「0.9秒」以内に抑えるために挿入・削除する１秒**のことです。うるう秒は、1972年に導入して以来、過去27回は挿入されており、削除されたことはありません。直近のうるう秒は、2017年元旦に日本時間の８時59分59秒の後に８時59分60秒が挿入されました。



しかし、うるう秒の挿入では、現代のデジタル社会では実際にシステム障害などが発生しており、特に近年は地球の自転が早くなっていることから、これまで経験のない削除が

行われる可能性が指摘されていました。このため先月15日に、世界共通の単位を決める国際度量衡総会において、**来年5月からうるう秒の挿入・削除を停止**する方針が決定され、将来的には、より大きな単位で時刻を調整する方法も検討されています。

仮に1時間単位で調整する方式が採用された場合は、欧米などのサマータイムで実績があるため、システム障害の可能性が低いとも言われています。また、**この方式で実際に時刻調整が必要となるのは、数百年から千年程度先と考えられているため、私たちが生きている間に経験することはまずないでしょう。**

うるう秒とはなんでしょう（CITIZEN HP）

→ https://citizen.jp/support-jp/manual/terms/deeper_02.html

【編集後記】

今月も防災・安全ニュースを最後までご覧いただきまして、ありがとうございました。

今月19日は、「世界トイレの日」です。日本では、昭和61年に「いい（11）トイレ（10）」の語呂合わせから、11月10日が「トイレの日」とされています。トイレは私たちの生活に欠かせないものですが、平安時代の神殿造りでは固定の厠（かわや）（部屋）はなく、適当な部屋に壷やおまるが用意されていたそうで、十二単（じゅうにひとえ）を着た女性はずいぶん大変だったのではないかと思います。

現代日本では、大抵のトイレが水洗式でトイレットペーパーをそのまま流すことができ、さらに温水洗浄便座も普及しています。こうしたトイレ環境は、世界的に見ても非常に恵まれていると感じています。　（N.O）